

東北ダンブの

【発行】全日本建設交運一般労働組合(略称・建交労)東北ダンブ支部
〒963-8025 郡山市桑野2-3-2
建交労福島ダンブ分会内
2023年8月1日発行 NO.14 TEL024-933-4511 fax024-921-1868
Email : fukusimadanpu@mtj.biglobe.ne.jp

ダンブキャラバン実施

第30回全国ダンブキャラバンの東北コースは、7月10日からの5日間取組まれました。東北キャラバンの特徴は、各県の代表や現場の仲間が参加して、連続して東北6県を回る事です。

キャラバンの語源は、ラクダに荷物を背負わせた「隊商」ですが、ミニバンに山ほどの説明資料を乗せた、まさにキャラバン隊です。

今回のキャラバン行動の目的は二つにすることを、事前の会議で確認しました。一つは、政権党の国会議員を後援している事などを笠に着て、「指導事項」などを平気で無視する請負者対策です。発注者にダンブ規制法の目的を十分に理解させ、請負者に対する確実な指導を求めることです。

これに関しては、訪問した先々で「資料に基づいた丁寧な説明をいただき、あらためてダンブ規制法の目的を理解しました」との、異口同音の感想が返って来ました。

二つ目は、キャラバン行動に参加した現場の仲間が、ダンブ規制法の目的と、なぜ自分たちが53,000円(税別)で働けるのかを理解して貰(もら)う事でした。この件に関しては、宮城県行動に参加した仲間が、翌日に連絡を寄越し「昨日の説明を聞いて、使用促進争の意味がよく理解出来ました。二人の対象者を組合に加入させますから」との反応がありました。うれしい限りです。

ダンブキャラバン行動は、体力、時間、お金などを消耗しますが、やはり組合が一丸となって取り組む必要があります。組合の仲間も、組合の方針に確信を持てば、今まで以上に力を出すのは実証されています。「機会があれば、また参加したい」などの感想が、多くの仲間から出されました。広域支部になって、会議ひとつ開くのも本当に大変ですが、更なる高みを目指して頑張りましょう。



残ったとも言える。雑木は薪や炭の原料と重要な役割をもち、飢饉から領民を救ったことから、津軽藩は御救山(おすくいやま)として森を領民に開放し、大飢餓を乗り越えたと伝わっている。▼白神から流れる釣りマニア人気河川がたくさんある。秋田は藤琴、真瀬、青森は赤石、追良瀬、暗門などがあり、釣り人にとっては、いずれも心躍る素晴らしい溪相である。▼下流部は鮎、山女魚の生息域で、中流部は鮎、山女魚、岩魚の混成でビギナーから上級者までの人気流域である。▼上流部(源流域)には、氷河期から生き残りの岩魚が主流で、世界遺産認定後は禁漁になり、棲息数は想像を絶するほど増え続けているが、なぜか解禁にならない。▼解禁を願う源流釣りファン、目屋マタギ文化の継承を願う人々、白神へ登山をする人々、世界遺産保護を考える人々、それぞれの立場から白神が三〇周年の節目を迎えるこの機会に、世界遺産白神への関わりについて考えてはいかげでしよう。

高橋 溪峰



晴釣雨読(せいちょううどく)

今年世界遺産認定三〇周年を迎える白神山地。津軽に住む人たちは様々な形で、白神山地からの恩恵を受けて来た。母なる森がもたらした恵みの数々知ること、白神からの贈り物に触れてみてはいかがでしょうか。▼ブナの芽吹きが始まるのは四月中旬で、白神はまだ冬景色である。ブナは山の高木の中で一番芽吹きが早く、カエデ、山桜の赤い芽を吹く春紅葉のとき、淡い緑色の若葉を広げ、それから一気に新緑が山の稜線を駆け上がる。「峰走り」と呼び、五日ほどで山の景色が一変し、山々は初夏を迎え、一年で最も美しい季節となる。▼白神は、青森と秋田にまたがり、全体の3割が世界遺産区域で、その7割が青森側で占められている。▼広大な森は、役立たずの森だから残ったとも言える。雑木は薪や炭の原料と重要な役割をもち、飢饉から領民を救ったことから、津軽藩は御救山(おすくいやま)として森を領民に開放し、大飢餓を乗り越えたと伝わっている。▼白神から流れる釣りマニア人気河川がたくさんある。秋田は藤琴、真瀬、青森は赤石、追良瀬、暗門などがあり、釣り人にとっては、いずれも心躍る素晴らしい溪相である。▼下流部は鮎、山女魚の生息域で、中流部は鮎、山女魚、岩魚の混成でビギナーから上級者までの人気流域である。▼上流部(源流域)には、氷河期から生き残りの岩魚が主流で、世界遺産認定後は禁漁になり、棲息数は想像を絶するほど増え続けているが、なぜか解禁にならない。▼解禁を願う源流釣りファン、目屋マタギ文化の継承を願う人々、白神へ登山をする人々、世界遺産保護を考える人々、それぞれの立場から白神が三〇周年の節目を迎えるこの機会に、世界遺産白神への関わりについて考えてはいかげでしよう。

関東大震災から 100 年

予算は防衛より防災に

高まる災害リスクに備えよ

関東大震災から100年、豪雨や地震の多発など、自然災害のリスクが高まっているが、岸田政権は防災より戦争への備えに熱心だ。備えるべきは自然災害だと声を大にして訴えたい。

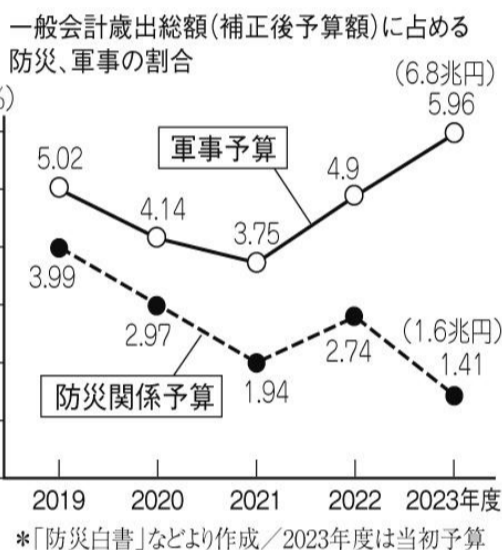
100年で 1.3℃上昇

政府の2023年度「防災白書」は、100年前に比べ自然災害のリスクは高まってきたと指摘している。

日本の年平均気温は100年で1.3℃上昇し、これに伴い全国的に大雨や短時間強雨の発生頻度が増加。年平均海面水温も100年間で1.24℃上昇しており、台風の被害拡大の恐れが高まっているという。

大規模地震の切迫性も強調している。首都直下地震や南海トラフ地震等の大規模地震や火山噴火の発生が近い、と想定されている。特に南海トラフ地震は、30年以内の発生確率が70～80%に高まっている。

「我々は、今後もさらに高まる自然災害リスクと正面から向き合い、将来予測される被害を回避・軽減するために、あらゆる努力を行うことが求められている」と白書は強調する。しかし、政府は本気で向き合っているのだろうか。



防災関係費は軍事費の4分の1

23年度の防災関係予算は1.6兆円で前年度の半分近くに減っており、防衛予算(6.8兆円)の4分の1未満である。防災は一般会計歳出総額の1.4%しかないが、防衛は約6%を占めている。

災害の発生状況により年によって防災予算に多少の増減がありつつも、災害は確実に襲来し、そのリスクは高まっている。人の力で事前に回避できる戦争の準備よりも、防災に予算をかけるべきなのは自明の理である。

水道管の耐震化 21年度末で41%

公共インフラの耐震化などは政府の国土強靱化基本計画で進みつつあるが、まだまだ不十分である。

例えば水道施設の耐震化率は、厚労省の直近の調査によると依然として低い。21年度末時点で全国の基幹的な水道管が41.2%、浄水施設が39.2%、配水池が62.3%となっている。

政府は基幹的な水道管の耐震化を25年度末までに54%、28年度末までに60%以上とする目標を立てている。だが、昨今の多発する地震を考えればもっと急ぐべきではないか。

ミサイルより災害用水陸両用車

土砂崩れで寸断された道や浸水地域など災害現場に急行が可能な消防の大型水陸両用車「レッドサラマンダー」が岡崎市と大阪市に各1台配備されているが、出動実績が少ないようだ。

豪雨や台風による浸水、土砂災害などの被害が毎年、全国各地で多発しているのだから、もっと小回りのきく水陸両用車を開発し、各地に配備すべきではないか。長射程ミサイルを開発・配備するよりははるかに役立つのは間違いない。

くらしの暦

2023年8月 葉月(はづき)

- 1(火)スターウィーク～7日
- 2(水)満月
- 6(日)広島原爆の日
- 8(火)立秋 笑いの日
- 9(水)長崎原爆の日
- 11(金休)山の日
- 13(日)ペルセウス座流星群極大
- 15(火)終戦記念日
- 16(水)新月 大文字送り火
- 22(火)旧七夕
- 23(水)処暑
- 24(木)地藏盆 葉害根絶デー
- 30(水)旧盆 防災週間～9/5
- 31(木)満月(2023年で地球から最も近い満月)



◆季節の挨拶 残暑お見舞い申し上げます 残暑の候 秋暑の候 立秋の候 晩夏の候

◆時候・社会 酷暑 熱帯夜 台風 ツクツクボウシ、コオロギ鳴く 海水浴ではクラゲに注意 鳳仙花、カンナ、夕顔など開花 平和学習 夏期休暇 帰省 盆行事 早稲の収穫 花火大会 夏休みの宿題 暑気払い

◆家事ごよみ 虫干し 残暑見舞い(8日以後) 防災点検



備えは戦争より災害に
地震、噴火、豪雨、台風は必ず来る